

「全鍍連」 2019年 4月号 いきいき地域

九州めっき工業組合 副理事長 京田 高裕 (東九州電子工業(株) 代表取締役)

「人口減少に少し対抗する」

私の在住する大分県宇佐市は人口約 54,000 人の小さな地方自治体ですが、先日、市の教育長の話聞く機会がありました。

どこの地方自治体も大きな課題としていると思うのが、少子高齢化に伴う人口減少。今後益々流入人口も減少して顕著となっていきます。そうすれば、税収が減少し行政サービスの質も落ちてくるわけで、人口をどのように確保するかは非常に重要な課題といえます。その上で、教育行政について意見を伺うと、今までの学校教育は、学力を上げて良い大学に行かせて良い企業に就職させる事を中心にしてきたのではないだろうかと考察されたうえで、今後は、地元に残る、もしくは戻ってこられる企業、仕事があり、それで生計を立てられるという事をもっと子供たちに示すことが大事だとの主張でありました。「志を果たして いつの日に帰らん」ではなく、「志を果たしに」となるべきだと仰っておりました。

一方、ベトナム人などの外国人実習生がここでも多く見受けられます。食品加工業や自動車関連の会社に多く所属しており、安い労働力の導入というよりも、一定期間の安定した労働力を確保するために活用しているのが実態のようです。下請けの業態が強い中小企業では、取引先からの要請に合わせて操業を余儀なくされるわけで、残業時間の削減や有給休暇の消化などを果たすためには、従業員の増加を図らねばならず、現在の雇用状況の中では、非常に厳しいと思います。若者が地方を離れる中、外国人に頼らざるを得ない状況なのです。

このような事を聞いたり考えたりする中で、地元の中学校に出向き職業についてのキャリア学習の講師を務めてきました。今回で 5 回目くらいだと思いますが、今までは小さなハルセル試験用の槽に硫酸銅を入れて銅鍍金をする実験をして時間を潰しておりました。

今回は、45 分間の授業で二人の講師が「職業とは」を語るとの事で、20 分の短時間の中で会社紹介、めっきの話をして、残りの時間を九州における自動車産業にかかわる企業がこんなに多いという事、だから将来地元就職して働いてもらいたい。と話しました。

どうせなら、話や文化の異なる外国人よりも地元の若者に就職してもらいたいと思うのは、我がままではないと思います。果たしてどの程度生徒たちに響いたかは解りませんが、自分なりに今後も悪あがきをしたいと思います。